

令和4年度教育課程研究集会  
小学校 外国語活動・外国語

# 外国語活動・外国語の指導における 主体的・対話的で深い学びの実現に 向けての授業改善について

令和4年8月

奈良県教育委員会事務局

学ぶ力はぐくみ課 教育統計係

指導主事 島田 浩司

# 1. 主体的・対話的で深い学び

## 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成と、学習評価の充実

外国語の背景にある文化の理解、相手への配慮を行いながら、  
主体的（自律的）にコミュニケーションを図ろうとする態度

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造・文法、言語の働きなどの理解とそれらを  
実際のコミュニケーションで活用できる技能

コミュニケーションを行う目的や場面、状況  
などに応じて理解したり表現したり伝え合ったり  
することができる力

### 何ができるようになるか

#### 各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

「外国語を使って何ができるようになることを目指すか」という目標を学校内外と共有し、  
ALT等の外部人材との連携、様々な教材やICTの効果的な活用を図りながら、  
外国語の教育課程を編成、実施し、学習評価を踏まえた改善を行っていくこと

### 何を学ぶか

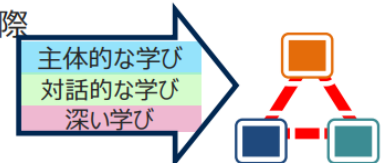
学校段階間の円滑な接続と児童生徒の課題  
を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- 小・中・高等学校を通じた**5つの領域別の目標**を設定  
（「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」）
- 小学校中学年における**外国語活動**の新設、高学年の**教科化**
- 高校の科目構成：統合的な言語活動を通して**5領域を総合的に扱う**科目群（英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ）と、ディベートやディスカッション等を通して**発信力**を高める科目群（論理・表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を設定

### どのように学ぶか

五つの領域別の言語活動及び  
統合的な言語活動を通じた指導を行う

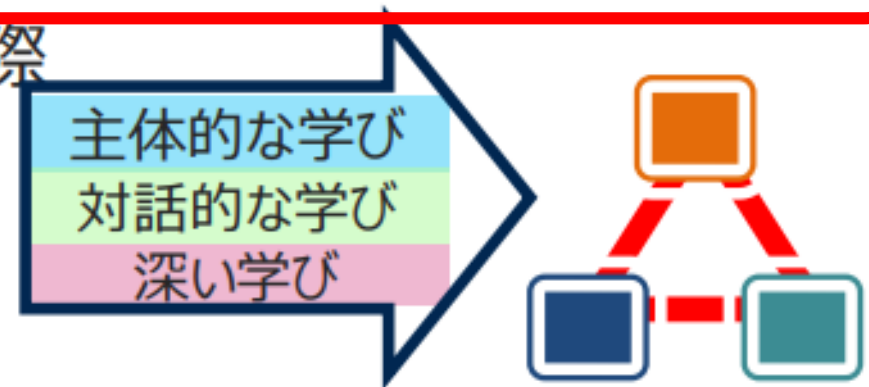
- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における**実際のコミュニケーションにおいて活用**する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を**実際のコミュニケーションの場面**とする
- 文法の用語や用法の説明に偏らず、言語活動と効果的に関連付けて指導



## どのように学ぶか

### 五つの領域別の言語活動及び 統合的な言語活動を通じた指導を行う

- 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、語彙や表現等の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る
- 授業は英語で行い（中・高）、授業を実際のコミュニケーションの場面とする
- 文法の用語や用法の説明に偏らず、言語活動と効果的に関連付けて指導



# 1. 主体的・対話的で深い学び

## 「主体的な学び」

児童が主体的に学びに向かっている時、多くの場合、児童が「面白そう」「やってみたい」と心を躍らせ、「思考している」「思考が活発になっている」状態であると思われる。主体的な学びを促すには、こうした場面を授業の中に意図的に創り出す必要があり、指導者にはそのための授業設計や指導方法の工夫が求められる。

外国語研修ガイドブックP54

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか（中略）といった視点で、授業改善を進めることが求められる。

# 1. 主体的・対話的で深い学び

## 「対話的な学び」

「対話的な学び」の視点からは、児童が考えを広げ深める、他者との協力や対話的な学びの過程の設定が求められる。（中略）

互いの気持ちや考えを伝え合う言語活動を行う中で、児童は新たな発見をし、自分や他者への理解を深め、自身の考え方を広げたり深めたりしていくことが期待される。

# 1. 主体的・対話的で深い学び

## 「深い学び」

単元を通した一連の過程の中で、児童は自分の思いや考えを深めたり更新したり、自ら考え判断し課題を解決しようとしたりする中で、言語材料の知識・技能が確かなものとなり、「深い学び」が実現されていく。

## 2. 外国語教育の目標

### 小学校学習指導要領（平成29年3月31日告示）

#### 第2章第10節 外国語

##### 第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、**外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

生きて働く  
**知識・技能**の習得

(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、**日本語と外国語との違い**に気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに**慣れ親しみ**、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる**実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能**を身に付けるようにする。

未知の状況にも対応できる  
**思考力・判断力・表現力**等の育成

(2) コミュニケーションを行う**目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したり**するとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の**語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたり**して、**自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力**を養う。

学びを人生や社会に生かそうとする  
**学びに向かう力・人間性等**の涵養

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、**他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。



## 2. 外国語教育の目標

### 小学校中学年 (外国語活動)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 小学校高学年 (外国語)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 中学校 (外国語)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### 高等学校 (外国語)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた総合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

## 2. 外国語教育の目標

### 「外国語活動」及び「外国語」における言語活動

- 言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。
- 英語を使用して互いの気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。
- 英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動は言語活動であるとは言い難い。

## 3. 最後に

### 主体的な学び

- 児童にとって魅力のあるビデオ視聴という目的や、何のためにインタビューするのかという活動目的の明確化によって、児童の意欲を引き出していた。
- 冒頭でのめあての提示が見通しをもった学びにつながっていた。また、単元途中でもめあての再確認をしていた。
- ICT機器を効果的に活用して振り返りを行うことで、児童が自らの成長を感じたり、学習到達度を確認したりしながら単元末の目指す姿に向けての自己調整を促す学習環境を整えていた。

## 3. 最後に

### 対話的な学び

- 友達、ALT、担任との意味のあるやり取りの中で、本単元で使用する表現を習得させていた。毎時間に言語活動が設定されていたことで、対話を通して学べる環境になっていた。
- 相手に合わせてその場でリアクションを考える必要がある活動を設定しており、相手に合わせて返答の仕方を考えたり、毎回のやり取りから新しい発見ができたりするようになっていた。

## 3. 最後に

### 深い学び

- 「話を弾ませる」というめあての設定によって、本単元に限らずこれまでに学んださまざまな表現を活用し、児童は思考力を働かせて自分ができることを試し、友達のよいところを真似して対話から学び、自らの力をさらに高める授業展開となっていた。
- 実際のやり取りに近づけるように言語活動の設定を工夫したことで、外国語を通じたコミュニケーションの楽しさを感じさせることができた。「もっとやりたい」という気持ちを引き出すことで、次の学びへの意欲につながっていた。